



大阪市教員会館の 60年



2013年(平成25年)7月27日
一般財団法人 大阪市教員会館

60年の歩みを継承し、 教育・文化・教養の向上・生涯学習の推進を



一般財団法人 大阪市教員会館
理事長 田中 孝治

大阪市教員会館が、由緒ある法円坂の地に昭和28年に創設されてから60周年を迎えました。この60年間は、戦後の復興期から経済成長の時期等を経て、少子高齢化、国際化に象徴される今日まで、著しく変貌を遂げてきた時代でありました

が、幾多の紆余曲折を乗り越え、営々と教員会館が歩み続けることができましたのも、ひとえに大阪市と大阪府教育委員会ならびに先輩教職員、そして歴代の役員の皆様のお陰と感謝申し上げます。

さて、教員会館の「建設趣旨」は下段記載のとおりで、誠に崇高な精神が揚げられております。この基本的な考えをもとに、大阪府教育委員会のご支援と教職員の総意をもって建設された教員会館は、一貫して教育・文化・教養の向上を進めることを目的に、教員の自主研修の場として、また教職員の生活基盤の改善をめざした施設としてその機能を果たしてきました。

ところでこの間、いくつかの大きな変化もありました。そこで今回は、昭和58年に新しい「教員会館(現・パル法円坂)」が建設されて30周年、平成22年度から大阪府教育青年センターの供用廃止に伴う「アネックスパル法円坂」の営業開始から3周年、また一般財団法人への移行を

踏まえて設置した「大阪市民教育研究所」開設1周年を、合わせての記念行事といたしました。

これからは、なお一層「自力更生」「自主運営」に努めることが求められますが、事業内容を「教育と青年」「歴史と文化」「健康と緑」「共生社会の実現」の観点から整備・拡充を図り、利用対象者も、教職員はもとより、教育関係者、青少年、一般市民にまで広がっているとごぞいます。

60周年の節目にあたり、先達の英知と勇氣と確固とした教育理念に学び、継承しつつさらに、新しい時代に対応して生涯学習体系に寄与する事業展開も推進していく所存であります。

今後とも末永く、一般財団法人大阪府教員会館の運営にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。各周年記念式典開催に当たってのご挨拶といたします。

なお、今までも各節目の周年行事が行われてきておりますが、教員会館の歴史をまとめたものは見当たらず、今回編集担当者による60年間の文書類の整理と関係文献等の精査の努力により本冊子を作成することができました。教員会館について認識を新たにする資料としてご活用いただければ幸いです。

建設趣旨

戦争の勃発と敗戦は教育の敗北
国家百年の大計のため教育充実に全力を

終戦後の混乱した社会秩序は時日の経過と共に漸次平穏となり、特に昭和二十七年四月、講和条約を締結して独立した事を契機として日本再建の標榜である文化国家への道が実質的に開かれ、現在国民の協力のもとに着々と歩みを続けているのである。文化国家建設の基礎は一にかつて教育の振興によるものである。太平洋戦争の勃発と敗戦は、教育の敗北であり、教員の萎縮にあるといわれ、国家百年の大計のため今こそ教育の充実に全力をそ、がなければならぬ。この意味において教員が各自の教養を図り研究を進め教育に挺進することが、祖国日本を平和と文化の理想郷に育てあげることになるのである。

大阪市立学校の教職員全員は、この責任と使命達成のため、教員相互の施設の実現を永年に亘って熱望して来た。幸い大阪市より共同研究の助成金交付以来、大阪府教育委員会坂東教育長以下事務局の好意ある指導と協力のもとに、その実現方について研究した結果、中央運営委員会を設立し、協約に従って昭和二十五年よりその半額を醸出して積立て市内教職員のため、共同研究と福祉厚生を目的とした教員会館を建設することによって永年の宿望の達成を期したのである。大阪市東区法円坂町六番地の敷地に昭和二十七年七月一日の起工式を挙行以来、教職員一致協力のもと幾多の困難な条件を克服して、去る四月三十日を以て竣工した。而して本大阪府教員会館は、前述の設立趣旨に鑑み財団法人として発足し教職員自体のものとして維持され、経営される事になるのである。今後教員の共同研究施設並びに福祉厚生施設としての教員会館が着実な発展を遂げることを念願し、ここに建設趣旨を述べる次第である。

昭和二十八年五月七日
大阪市立学校共同研究中央運営委員会



旧教員会館 (昭和28年当時のパンフレットより)

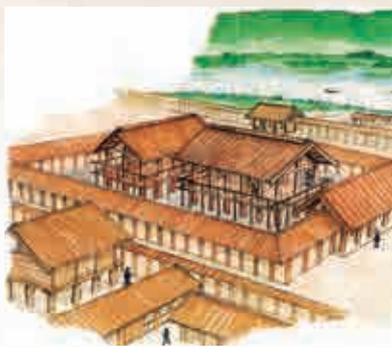
大阪市教員会館の60年

大阪市教員会館は、教職員の自主的研究、福利・厚生をの殿堂として誕生以来、本年6月1日を以て60周年を迎えました。また、本年4月には新たな非常勤法人・一般財団法人としてのスタートを切ったところです。

さらにパル法円坂として開館30周年、アネックスパル法円坂として開業3周年、大阪市民教育研究所開設1周年をそれぞれが迎える節目の年に当たります。そこで、財団の歩んできた道を振り返るために、大阪市教員会館の60年と題して、往時の写真を中心に小冊子にまとめました。

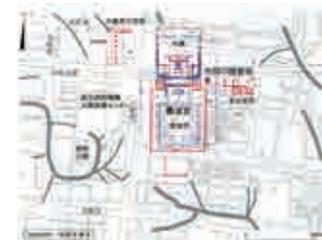
立地場所・法円坂の歴史

大阪市教員会館の所有するパル法円坂とアネックスパル法円坂は、上町台地の大変由緒のある土地柄の上に建設されています。法円坂の名前の由来には2説あり、真宗西本願寺派の浄照坊の開祖・



難波宮 古の宴会場 (饗応施設の復元図) 大阪市教育委員会 植木 久氏 画

法円の邸宅がこの地にあったというものと、慶長期にあった法安寺の転訛によるもの(『続東区史』別巻)といわれています。



孝謙天皇の「東南新宮」説も

飛鳥・奈良・平安時代には、この辺り一帯が当時の政治、行政の中心・難波宮であったことが広く知られています。また、パル法円坂の建設時の発掘で当館一帯に「東方官衙(役所)」が広がっていたことが明らかとされましたが、さらに最近の発掘の成果として、当館近くは7世紀の女帝・孝謙天皇の「東南新宮(天

皇の住居)に当たる可能性があると言われています(文化財研究所資料NW12-16次H25.1.20)。ちょうどアネックスパル法円坂の真上を含んだ一帯に当たります。

また、難波宮中心部の東方、パル法円坂の東側の隣地・旧国立衛生研究所跡からは、飛鳥時代の大型建物跡が発見され、中国や韓国など当時の国際的な交流でも利用された古の宴会場ではないかといわれています。

時代は下り、桃山時代から江戸時代に石山本願寺を経て、大坂城が建てられました。大阪冬の陣、夏の陣を境に豊臣時代の大阪城、徳川時代の大坂城に分けられますが、豊臣時代の大坂城では当館は大坂城三の丸にあたり、徳川期の大坂城では当館は武家屋敷の跡になります。

時代はさらに下ります。明治維新を迎え、明治は36年、大阪に陸軍被服廠の支廠が設置(勅令133号)されることになりました。明治37年2月の日露戦争における軍用被服の需要の増大などを背景に、被服支廠は大林組の施工により明治38年3月竣工(『大林組120年史』)します。さらに明治41年「大阪陸軍被服支廠」と改称(勅令23号)され、大正の時代を経て昭和20年6月7日、第2次大阪



徳川期の大坂城 (新撰増補摂州大坂大絵図、大阪歴史博物館蔵)



豊臣期の大坂城 (江浦2005を改変「発掘された大阪2007」、大阪府立弥生文化博物館)



広大な陸軍被服支廠 (古地図(昭和10年大坂市街地図)から大阪城から第八連隊・被服支廠部分を拡大しました。)

教員会館と教職員福利厚生の60年

昭和22年	昭和25年	昭和26年	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和32年	昭和33年	昭和35年	昭和38年	昭和40年	昭和42年
大阪市立学校共同研究費予算化	大阪市立学校共同研究中央拠出金(1人月額150円)積立開始	市教委と市内5教組協議会 営委員会設置の協約	大阪市立学校共同研究中央運営委員会に於いて教員会館建設を議決	大阪市は大阪市立学校共同研究中央運営委員会に大阪市有土地・東区法圓坂町(元被服廠跡)6番地の3、地積二、〇〇坪の払下げを決定同日、大阪市教員会館建設に着工	大阪市立学校共同研究中央運営委員会は財団法人設立を満場一致で議決	大阪市立学校共同研究中央運営委員会規定を制定	大阪市立学校共同研究中央運営委員会は財団法人大阪市教員会館へ土地・建物・基本金(10万円)を寄附、府教委へ財団設立を申請	大阪市教員会館、大阪府教委指令第475号により財団法人の認可を受け事業開始	教員会館購買部(学校生協の前身)開設	別館高津(たかつ) 荘・豊明殿落成、事業開始	大阪市立学校共同研究中央拠出金(1人100円)積立継続を決議	大阪市立学校生活協同組合設立
4月1日	4月1日	3月16日	7月4日	1月30日	7月	12月14日	4月1日	2月25日	11月1日	7月1日	6月10日	6月6日
大阪市立学校共同研究中央運営委員会に於いて教員会館建設を議決	大阪市立学校共同研究中央運営委員会設置の協約	大阪市立学校共同研究中央運営委員会に於いて教員会館建設を議決	大阪市は大阪市立学校共同研究中央運営委員会に大阪市有土地・東区法圓坂町(元被服廠跡)6番地の3、地積二、〇〇坪の払下げを決定同日、大阪市教員会館建設に着工	大阪市立学校共同研究中央運営委員会は財団法人設立を満場一致で議決	大阪市立学校共同研究中央運営委員会規定を制定	大阪市立学校共同研究中央運営委員会は財団法人大阪市教員会館へ土地・建物・基本金(10万円)を寄附、府教委へ財団設立を申請	大阪市教員会館、大阪府教委指令第475号により財団法人の認可を受け事業開始	教員会館購買部(学校生協の前身)開設	別館高津(たかつ) 荘・豊明殿落成、事業開始	大阪市立学校共同研究中央拠出金(1人100円)積立継続を決議	大阪市立学校生活協同組合設立	大阪市立学校用品株式会社設立

空襲にてほぼ全焼するまで、陸軍第八連隊とともに、大阪鎮台・第四師団司令部・大阪城（現在の大阪城は昭和6年建設）の南方の広大な一角を占有していた。

昭和10年発行の大大阪市街地図を見てください。当館は被服支廠の一部に建てられていることがわかります。当時は中央大通りもなく、実に広大な面積の敷地が被服支廠と陸軍第八連隊でした。被服支廠で26000坪、被服倉庫を合わせて31000坪もの広さがありました。現在マンションになってしまった旧大阪府立青少年会館も被服支廠の倉庫であったことがわかります。なお、使用した地図は昭和10年のものですが、軍事機密上の必要から昭和15年には日本統制地図株式会社、昭和19年には日本地図株式会社と地図の発行は統制され、この時期からは、第四師団司令部や被服支廠を含め軍関係の施設は地図上から消されてしまいうことになりました。また、戦後の地図からは当然、軍関係の施設はなくなっています。



大阪城航空写真 昭和4年(1929年)頃
(天守閣はまだありません。陸軍第八連隊兵舎、被服支廠は左上部にあります。「本古写真データベース」より引用)

以下当時の写真解説 大阪城東北の上空150メートルよりの航空写真で豊太閣の偉業を一望することができます。天正十一年起工、同十四年竣工、僅か三年で築造したものが時代の変遷と共に広々構造を異にし徳川末期には本丸（附山里丸）、二の丸、三の丸の三大曲輪を以ってなる総坪数約三十万余坪

（今日も之と大差がない）三者は幅三十間乃至六十間の濠を以て隔てられ石垣の高さは本丸の東手で十三間、二の丸の南手で十二間、三の丸の北手で三間である。写真の中央が本丸で今は第四師団司令部、濠を隔てて二の丸、外濠の右手の橋が京橋口、白亜の高層建築が府庁、左へ順に旅団司令部、車重大隊、歩兵連隊この兵營のある一帯の地域が豊臣秀吉時代の三の丸の一部である。天守閣は寛文年間焼失したが最近大阪府では百万円を投じて再建しようと計画している。

教員会館の歴史 (旧教員会館・高津荘)

戦中、戦後の混乱期を経て、いよいよ教員会館の歴史が始まります。昭和27年7月4日、教員会館と一体の大阪市立学校共同研究中央運営委員会に、大阪市の所有となっていた旧被服支廠跡地が払い下げられます。他にも旧被服支廠跡地が払い下げられますが、現在のNNT(当時の通信省、電気通信省、日本電信電話公社)、KKRホテル(当時の大蔵省、今はなくなりましたが旧国立衛生研究所(当時の厚生省)などの国の施設や、旧東職業安定所、さらに旧大手前社会保険事務所(現在大阪府監察医事務所)、旧大阪府立青少年会館、旧大阪市住宅供給公社住宅、旧大阪府農林会館など、府・市の施設がずらりと名を連ねます。

昭和28年6月1日、真新しい建物が落成し、財団法人大阪市教員会館が設立されます。教員会館落成・開館にあたり「太



建設中の旧教員会館



旧大阪市教員会館正面入口
(旧教員会館を背景に設立時の役員)

平洋戦争の勃興と敗戦は、教育の敗北であり、教員の委縮にあるといわれ、国家百年の大計のため今こそ教育の充実に全力を注がなければならない」「祖国日本を平和と文化の理想郷に」と高らかに建設趣旨を謳っています。建設資金は、当時の大阪市の教員が共同研究費を積み立て捻出しました。少し詳しく記述しておきますと、昭和22年から24年に、大阪市の教員に共同研究費月額100円を支給します。昭和25年からこれが300円に引き上げられ、支給額の半額が共同研究中央運営委員会において、共同して執行されるようになります。この3年間で、教員会館の建設資金が積み立てられたのです。さらに、昭和29年にこの額が400円(拠出金は4分の1、100円)に引き上げられ、平成16年に廃止されるまでの額のまま据え置かれます。戦後間もなくの共同研究費100円は大変大きな金額ですが、授業を軍服で行わなければならないほど物資は不足しており、「図書、授業服など教員の資質向上」をとの願いが、この研究費に込められていたのです。このよ



旧教員会館のロビー
(当時としてはとてもモダンな会館でした。)

昭和43年	昭和46年	昭和55年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	平成元年	平成4年	平成5年	平成8年	平成10年	平成11年					
6月6日	7月1日	8月31日	7月9日	2月12日	3月6日	10月1日	4月	4月	1月21日	4月1日	7月9日	9月1日	6月1日	6月30日					
教員会館、大阪市に教育青年センター敷地を無償貸与	大阪府教育青年センター(中央青年センター・教育会館)完成	大阪市教員会館・別荘高津荘・豊明殿の事業閉鎖、財団法人の事業は継続	会館建て替え(等価交換信託方式)による新会館建設を決定	新会館建設地鎮祭並びに披露祝賀会挙行	新会館建設に着工	大阪市教職員退職者会結成	等価交換信託方式完了、新会館引き渡し式	新会館(大阪市教職員法円坂会館)落成記念式典、財団法人大阪市教員会館創設30周年記念式典挙行	大阪市教職員法円坂会館事業開始、神式結婚式場「豊明殿」開設	七日会発足	法企研発足	財団法人大阪市教員会館創設40周年・法円坂会館開館10周年記念式典挙行	厚生会の一一般事業を教員会館受託	財団法人大阪市教員会館創設35周年・法円坂会館開館5周年記念式典挙行	財団法人大阪市教員会館創設40周年・法円坂会館開館10周年記念式典挙行	愛称を「パル法円坂」に改称	パル法円坂リニューアル工事実施	財団法人大阪市教員会館創設45周年・パル法円坂開館15周年記念レセプション挙行	七日会・法企研の名称を大阪市政職員福利団体協議会、同幹事会と改称

で祝言を挙げるのが普通という時代の中、戦後、地方から採用された教職員が、住宅事情から結婚式を挙げる事ができないという切実な背景がありました。その中で公共会館での結婚式場ですから、高い需要に支え



旧教員会館の玄関
(大阪市情報処理教育センターが入居していた時期の教員会館玄関。昭和47年以降)



旧高津荘の中庭の写真
(木造の高津荘には立派な中庭がありました。)

され、視察団が相次ぎました。教員会館設立の昭和28年は、日本初のテレビ本放送が開始され(2月)ケネディー・ジャクリンの結婚(9月)が大活躍していた、そんな戦後復興の活気みなぎる時代でした。昭和30年12月14日、教員会館は木造の結婚式場・別館高津荘を建設し、結婚式事業を開始します。当時はまだまだ家



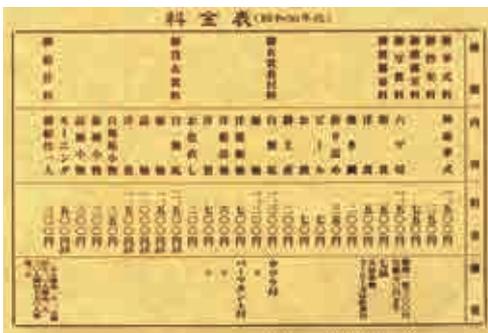
結婚式場「豊明殿」
(当時の大阪市教員会館別館・結婚式場「豊明殿」のパンフレット)

うに、「自立、自力更生」の精神で建設された大阪市教員会館は当時、全国の教職員から注目



教育青年センターが落成
(大阪市立中央青年センター・大阪市教育会館)の落成記念パンフレット

また、教員会館には昭和47年、3、4階に大阪市情報処理教育センターが入居、2階に大阪市教育研究所分室(養護教育センター)が入居しました。このように、昭和46年に建設された大阪市教育青年センターに移転した大阪市教育研究所(両者とも現在大阪市教育センターに統合)とともに、大阪市の教育研究の重要な役割を果たしました。



られ活況を呈していました。大阪市立労働会館(現在大阪市児童相談所)、大阪府立農林会館(閉館)、国家公務員共済会館(現在KKRホテル大阪)、大阪府警察の城南会館(閉館、現在難波宮跡公園の一部)が同じように結婚式事業を始め、高津荘も夏休み中の大安などは平日でも盛況で、ピーク時の昭和39年には年間1127組もの結婚式を行なっていました。ちなみに、昭和30年ごろの結婚式の料金表を載せておきます。パーマネント、洋髪などの言葉に時代を感じる事ができます。



共同研究中央運営委員会と教員会館の配布資料

話は前後しますが、昭和43年6月6日、教員会館は大阪市に敷地を無償貸与し、教育青年センターの建設が始まりました。このころ、難波宮遺跡を保護する運動が高まり、昭和40年には大阪府立第二整肢学院、昭和41年、阪神高速道路東大阪線、そして昭和43年の教育青年センターなど、相次ぐ建設遺構の保存が大きな問題となります。特に教育青年センター建設については、昭和44年「工事差し止め」を求めて、住民訴訟が提起され、11年を経て原告と和解に至り、「難波宮跡をはじめ文化財の保存と顕彰に最善の努力を払う」等の和解条項で大阪市とが合意しています。現在、当館も民間団体で



中馬市長が祝辞
(教育青年センター落成で祝辞を寄せる中馬市長(当時))

平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成18年	平成17年	平成16年	平成15年	平成14年	平成13年
4月1日	8月27日	7月15日	4月1日	4月13日	1月16日	6月12日	1月25日	12月19日	1月10日	4月1日	9月1日
一般財団法人大阪市教員会館に移行	大阪市民教育研究所を開設	アネックスパル法円坂(大阪市教育会館)落成40周年記念パーティー挙行	アネックスパル法円坂(大阪市教育会館)開業	「共研裁判」勝利的和解(大阪高裁)	財団法人大阪市教員会館創設55周年記念パーティー挙行	教職員厚生会解散を決議(実質的な運営は平成16年度まで)	「共研裁判」原告が控訴	「研究費で結婚式場運営」報道	財団法人大阪市教員会館2050周年記念レセプション挙行	結婚式場等運営を委託体制に切り替え	バンケットを改修

あり限りはありますが、可能な限り難波宮の顕彰に協力をしています。

このように、紆余曲折がありました。昭和46年7月1日、大阪市教育青年センター（中央青年センター・教育会館）が落成します。大阪の教育と青年のためにという、教員会館と大阪市、大阪市教育委員会一体となった願いが結実したのです。



閉館直前の教員会館
(手前から、国立衛生研究所、中間が教員会館、後が教育青年センター、『続中央区史』第1巻、昭和55年発行より)

時代はバブル景気前夜の昭和55年8月31日、教員会館は昭和28年落成の旧教員会館と昭和30年落成の別館高津荘の閉鎖を決めます。施設の老朽化などの要因が積み重なり、多額の赤字経営となっていたのです。大変厳しい議論が繰り返され、「高津荘閉鎖、全職員退職（解雇）」という苦渋の決断を行いました。そして「新



難波宮を発掘
(新会館建設の
為、難波宮遺
跡を発掘調
査しました。)



新会館を建設
(新会館・法
円坂会館を建
設中の写真)

しい研究と想いの殿堂建設を」（共同研究中央運営委員会）、「自力更生 再建の方針 採算のとれる新館建設を」（教員会館）と新会館建設に向けて、歩みが進められます。そして、新会館建設のため、教員会館の下に眠る難波宮遺跡を発掘調査し、現在のパル法円坂の建設がすすめられました。

パル法円坂と パル法円坂と

昭和59年3月30日、待望の新会館・法円坂会館が落成します。平成5年には落成10周年を記念して愛称が募集され、現在の「パル法円坂」に改称されます。ただ残念なことに、旧高津荘職員の退職金捻出と新会館建設のため「等価交換方式」という形で、旧教員会館と高津荘の敷地約1000坪の3分の2を事実上失



▲平成5年、愛称募集のパンフレット
(パル法円坂は愛称募集で決まりました。)

う結果となってしまいました。多くの犠牲の上に新会館は建設されたのです。

パル法円坂は、幾多の困難に直面しながら運営が続けられてきました。平成11年9月にはチャペル「ブリリアントクロス」が新設され、それまでの神殿「豊明殿」の神式結婚式などに加え、教会式の結婚式も可能となりました。現在では圧倒的多数の方が、教会式で挙式をされています。さらに、平成14年9月にはパル法円坂を全館リニューアルし、イタリアンテイストに改修しました。現在の、全館フローリングという斬新なスタイルが



▶新しい会館が落成
(昭和59年、落成した法円坂会館の外観)

▼法円坂会館のロビー
(ロビーには鶴のシャンデリアがありました。)



▶法円坂会館の披露宴会場、白鳳
(天平・白鳳・弥生間の三つの会場がありました。)

児童生徒作品展の歩み

昭和34年	昭和35年	平成10年	平成11年	平成17年	平成18年	平成20年	平成22年	平成24年
2月19日	12月14日	7月25日	2月21日	2月20日	3月5日	3月2日	2月28日	2月17日
第1回小学校児童画展を開催	第1回中学校生徒美術展覧会を開催 この展覧会以降、小中合同で作品展を開催	上海教育会堂と大阪市教員会館が友好姉妹会館協定を締結	第41回小学校児童、第39回中学校生徒作品展にあわせ上海児童絵画作品10点を展示（第1回日中児童絵画作品展）	第47回小学校児童、第45回中学校生徒作品展、第7回日中児童絵画作品展を困難の中実施、昭和60年より小中作品展と合同で開催されてきた教職員美術展はこの52回をもって休止にいたる	第48回小学校児童、第46回中学校生徒作品展、第8回日中児童絵画作品展を開催、困難の中、小中作品展について展示期間を延長し、規模を縮小し実施	第50回小学校児童、第48回中学校生徒作品展、第10回日中児童絵画作品展を開催	第52回小学校児童、第50回中学校生徒作品展、第12回日中児童絵画作品展を開催	第4回三国（日中露）六地（大阪・上海・重慶・内蒙古・チタ）ウラン展覧会を開催
								日中国友好年次行事、認定小学校巡回展示、52回、14回、児童生徒作品展を開催



三国六地展覧会で大阪役所を表敬訪問



▲4Fピッコリーノ
(イタリアの邸宅にあるリビングルームのようにくつろげる雰囲気。)



◀4F専用ロビー
(上品なイスやローテーブルもレイアウトされ高級感たっぷり。)

▲4Fコモ
(イタリアのコモ湖をイメージして作られた宴会場「コモ」)



教育復興を支援
(2011年3月11日東日本大震災。教員会館は直ちに教育復興支援を行いました。)

登場します。その後、経営安定のため、平成14年4月から委託体制による結婚式運営が行われました。しかし、相次ぐ委託先の破綻により大変困難な時期を過ごしますが、平成19年10月より現在の委託体制となり、厳しい状況ながら安定した運営が行われています。

さらに大きな困難が待ち受けていました。平成16年いわゆる「大阪教員厚遇問題」に端を発し、平成20年大阪地裁全面勝利、平成21年大阪高裁勝利的和解との結果を迎えますが、住民監査請求に基づく裁判が闘われました。この時期、会館の運営としても、また外部要因としてもきわめて困難な時期でした。教員会館を取り巻く団体にも、大きな転機が訪れます。平成17年度には、昭和26年につくられた共同研究中央運営委員会や昭和42年につくられた大阪市教職員厚生会等の



アネックスバル法円坂がオープン
(アネックスバル法円坂のオープニングパーティで平松市長が祝辞を述べられました。)

存続が不可能になるなど、教職員福利厚生の大変な取り組みが化しました。さらに、法律に基づいて設けられている年金や医療(共済組合)、条例によって設けられている府・市の互助組合・互助会にも見直しの波が急速に押し寄せました。

このような厳しい状況の中、教員会館設立の「自主独立、自力更生」の精神を試す、さらに大きな転機が訪れます。平成22年4月、残念なことでしたが大阪市教育青年センターの供用が廃止されます。このことを受け、アネックスバル法円坂(大阪市教育会館)がスタートを切りました。大阪市の運営ではなくなりましたが、引き続き、教育と青年の会館として、教員会館の運営するアネックスバル法円坂が開業したのです。

▶現在のバル法円坂外観



平成25年4月1日、法人改革に伴い、本年4月1日、新しい非営利法人・一般財団法人大阪市教員会館として新たな歩みを進めることになりました。また、新法人の継続公益事業として大阪市民教育研究所を設置(平成24年8月27日)し、自主的教育研究と教育研究活動の支援を行っています。

そして、平成25年6月1日、教員会館は60周年を迎えました。

振り返ると今から60年前の昭和28年、全国に先駆けこの法円坂の地で、大阪市教員会館はスタートしました。その後、幾多の困難を乗り越え、また多くの人々の支援を受け事業が進められてきました。その中であって、自主的な教職員団体や福利厚生事業団体の役割は重要です。営々として先輩たちが築いてきたこれらの事業は、私達教職員のみならず、子どもたち、青少年、市民のためにも役立っています。

引き続き、教職員会館、教育と青年の会館を大いに利用・参加いただき、さらに大きく育てていただきたいと思います。強く願っています。

重い60年の歴史

昭和51年から法円坂界隈に出入りすることになりましたから、私にとって旧教員会館とは事業を廃止する昭和55年までの間、5年ほどの付き合いでした。新会館の落成時は東京におり、まさか自身が新しい教員会館の運営に直接かかわろうとは、つゆと思っていませんでしたが、今回大阪教員会館の60年をまとめるにあたり、昭和28年の財団設立の全市も含め戦後の教職員の歩んできた道のりをまとめる作業が教員会館の歴史を振り返ることと、改めて認識したところです。



50周年当時は、歴史を振り返る余裕とてない大変厳しい状況下であり、それまでの年表などをリライトしたものでお茶を濁してきたのですが、今回小冊子ながら財団の歴史を取りまとめてみました。不十分ではありますが、過去の記述の一部の誤りを正すことや、新しい資料も取り入れることができました。理事長から「大阪府小学校長会五十年のあゆみ」や「未来を拓く、五十年の足跡(大阪市立小学校長会)」には、昭和28年5月11日に大阪教員会館開館式が行われたとの記述があると指摘され、財団に残されている資料を探してみたのですが、見当たりませんでした。しかしながら、4月30日に府教委に財団設立を申請し、6月1日には財団設立認可を受け、事業を開始していることを見ると、そのあたりに式典をやっているとは思っていません。ひょっとして、設立時の役員による記念撮影と一緒に残されていた野外での宴席の様相はその時のものかもしれません。

私にとって、古い資料からいろいろと推測することは、実に楽しい作業でした。近い将来、これらの資料が散逸しないように、もう少し本格的な「周年史」にまとめたいと思います。そして、この60年の歴史の上に、是非後世の教職員の手によって、70年、80年と新しい教員会館の年輪が刻まれることを願わずにいられません。

資料提供や、ご助言いただいた皆様へ感謝申し上げます。編集後記とします。



一般財団法人大阪教員会館
専務理事 平沢 保人



アネックスバル法円坂スパーツィオ

歴代会館役員一覧

年度	理事長	副理事長	副理事長	専務理事
昭和28年度	茅 章雄	内山裕三郎	瀬尾 武敏	
昭和29年度	茅 章雄	内山裕三郎	瀬尾 武敏	
昭和30年度	茅 章雄	内山裕三郎	瀬尾 武敏	
昭和31年度	茅 章雄	内山裕三郎	瀬尾 武敏	
昭和32年度	茅 章雄	内山裕三郎	瀬尾 武敏	
昭和33年度	茅 章雄	友沢 太郎	瀬尾 武敏	
昭和34年度	茅 章雄	友沢 太郎	瀬尾 武敏	
昭和35年度	茅 章雄	友沢 太郎	瀬尾 武敏	
昭和36年度	茅 章雄	友沢 太郎	瀬尾 武敏	
昭和37年度	茅 章雄	友沢 太郎	瀬尾 武敏	
昭和38年度	茅 章雄	藤田大三九	瀬尾 武敏	
昭和39年度	茅 章雄	藤田大三九	瀬尾 武敏	
昭和40年度	茅 章雄	藤田大三九	瀬尾 武敏	
昭和41年度	茅 章雄	藤田大三九	瀬尾 武敏	
昭和42年度	茅 章雄	岡嶋 誠二	長尾 脱	
昭和43年度	茅 章雄	岡嶋 誠二	長尾 脱	
昭和44年度	茅 章雄	吉川 九助	長尾 脱	
昭和45年度	茅 章雄	乾 英三朗	橋本 正夫 常任理事/森隆	
昭和46年度	乾 英三朗	森 隆	橋本 正夫	
昭和47年度	乾 英三朗	古川加久平	橋本 正夫	
昭和48年度	乾 英三朗	古川加久平	橋本 正夫	
昭和49年度	乾 英三朗	古川加久平	橋本 正夫	
昭和50年度	白井 重行	河村 昭	橋本 正夫	
昭和51年度	末吉 義一	植松 博之	橋本 正夫	
昭和52年度	末吉 義一	植松 博之	橋本 正夫	
昭和53年度	末吉 義一	橋本喜代治	橋本 正夫	
昭和54年度	對馬 熊雄	橋本喜代治	橋本 正夫	
昭和55年度	對馬 熊雄	橋本喜代治	橋本 正夫	
昭和56年度	對馬 熊雄	橋本喜代治	橋本 正夫	
昭和57年度	酒井 康晴	橋本喜代治	西村 稔	
昭和58年度	酒井 康晴	橋本喜代治	西村 稔	
昭和59年度	来山 武	橋本喜代治	西村 稔	
昭和60年度	来山 武	池松 亭	中西 米一	橋本喜代治

年度	理事長	副理事長	副理事長	専務理事
昭和61年度	来山 武	池松 亭	植松 博之	橋本喜代治
昭和62年度	沼守 輝夫	藤澤 清和	植松 博之	橋本喜代治
昭和63年度	竹島 康夫	上鶴 正明	植松 博之	橋本喜代治
平成元年度	竹島 康夫	上鶴 正明	植松 博之	橋本喜代治
平成2年度	入江 信男	上鶴 正明	植松 博之	橋本喜代治
平成3年度	岡本 修一	福田 勝	植松 博之	中西 米一
平成4年度	岡本 修一	石川 博俊	谷川 昭	中西 米一
平成5年度	岡本 修一	長濱 春洋	谷川 昭	中西 米一
平成6年度	西中 隆	長濱 春洋	谷川 昭	中西 米一
平成7年度	西中 隆	田袋 照巳	谷川 昭	中西 米一
平成8年度	里見 喜一	岡部 勤	東 修三	茶谷 靖
平成9年度	里見 喜一	小山 武良	東 修三	茶谷 靖
平成10年度	竹内 功	小山 武良	東 修三	茶谷 靖
平成11年度	竹内 功	又川 喜一	東 修三	茶谷 靖
平成12年度	田中 孝治	松田 晃	東 修三	茶谷 靖
平成13年度	佐藤 榮一	岩槻 信行	東 修三	茶谷 靖
平成14年度	佐藤 榮一	岩槻 信行	東 修三	茶谷 靖
平成15年度	諏訪部善則	山本 修	東 修三	茶谷 靖
平成16年度	諏訪部善則	山本 修	東 修三	茶谷 靖
平成17年度	是澤 純一	山本 修	東 修三	茶谷 靖
平成18年度	是澤 純一	山本 修	東 修三	茶谷 靖
平成19年度	小林 正一	仲尾 昭	田村 孝	平沢 保人
平成20年度	小林 正一	尼丁 正寄	川島 一郎	平沢 保人
平成21年度	俵谷 好一	八田 実	川島 一郎	平沢 保人
平成22年度	田中 孝治	川島 一郎	川島 一郎	平沢 保人
平成23年度	田中 孝治	川島 一郎	川島 一郎	平沢 保人
平成24年度	田中 孝治	川島 一郎	川島 一郎	平沢 保人
平成25年度	田中 孝治	川島 一郎	川島 一郎	平沢 保人

平成25年度 役員・評議員名簿

理事長	田中 孝治	監事	安達 正八
専務理事	平沢 保人	評議員	奥村 基治
理事	川島 一郎	評議員	稲田 幸良
理事	潮見 芳廣	評議員	実森 之生
理事	奥山 泰行	評議員	益成 誠
監事	東 修三	評議員	小西 秀明

アネックス パル法円坂
 (TEL.06-6943-5021) FAX:06(6945)4833
 E-mail:annex@zaidan.or.jp

パル法円坂
 (TEL.06-6943-1122) FAX:06(6943)1137
 E-mail:hoenzaka@1122pal.ne.jp

一般財団法人 **大阪市教員会館事務局**
 (TEL.06-6941-0951) FAX:06(6941)7474
 E-mail:kaikan@zaidan.or.jp

大阪市民教育研究所
 (TEL.06-6948-5418) FAX:06(6948)5419
 E-mail:kenkyusho@zaidan.or.jp

最寄り駅のご案内

地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅10番出口より
 地下鉄長堀鶴見緑地線・中央線「森ノ宮」駅2番出口より
 JR環状線「森ノ宮」駅より

各駅より徒歩約10分

〒540-0006 大阪市中央区法円坂
 1-1-38 (パル法円坂)
 1-1-35 (アネックス パル法円坂)